

捕物帳小説に学ぶ

江戸用語の基礎知識

その四・岡っ引き(おかつびき)

捕物小説の主人公といえ、町奉行の与力に同心。それに岡っ引きとその子分たちだが、岡っ引きはいわば俗称、正式には与力同心に使われる小者である。

岡本綺堂「半七捕物帳・石灯笼より」

「それから私共のことを世間では御用聞きとか岡っ引きとか手先とか勝手にいろいろの名を付けているようですが、御用聞きというのは一種の敬語で、他からこつちをあがめて云う時か、又はこつちが他を嚇かす時に用いることばで、表向き呼び名は小者というんです。小者じゃ幅が利かないから、御用聞きとか目明しとかいうんですが、世間では一般に岡っ引きと言っていました。

で、与力には同心が四、五人ぐらいついていて、その岡っ引きの下には又四、五人の手先が付いているという順序で、岡っ引きも少し好い顔になると、一人で七、八人乃至十人ぐらいついて使っていました。

岡っ引きの「岡」には、かたわらという意味があり、岡惚れがいい例でしょう。正面からではなく横(かたわら)から惚れるのです。公認された遊郭の吉原に対して、非公認の遊里を岡場所と呼んだのも同様の意味となるでしょう。

本物の役人が引つ張るなら本引きだが、正式な役人ではない者が引つぱるから岡っ引きなのです。ふつと与力には、同心が四、五人ついている。その同心の下には、岡っ引きがこれも二、三人手先として付いている。そして岡っ引きにも子分(下っ引)が何人か付いていました。たいしては、四、五人だが、岡っ引きも少し好い顔になると、七、八人から十人ぐらいついて持っていたらしい。

町奉行所からの給料は、一か月に一分二朱

(一万五千円ぐらい)が上の方で、従って、強請たりまがいのことを、公然と行われていたため、江戸市民からは悉く嫌われていた者もいた。(三三三三 M・I)

六義園のしだれ桜と 染井吉野桜の故郷を訪ねて

駒込の「六義園」の美しいしだれ桜と染井吉野桜の発祥の地を訪ね、桜の名所でもある「染井霊園」に眠る著名人のお墓を巡る散歩をしてみませんか。

駒込駅の北口改札を出ると、前の広い道は本郷通り、駅の右側に染井吉野桜記念公園があります。ここ駒込は染井吉野桜の発祥の地で、「メイヨシノ」と、親木の「エドヒガン」「オオシザクラ」が植えられ、親子の桜を比較して楽しめる場所、記念碑もあります。駅前信号を渡り左へ行くと、数分で六義園に着きます。園に入るとまず目に飛び込んでくるのがすばらしい枝振りのしだれ桜。枝いばいに咲いている姿は滝のよう



に美しい。園内には、桜の木も多く、この時期の景色は一味違います。六義園を出て、本郷通りを少し戻り、駒込橋の信号で斜め左の道を進み、蕎麦屋の手前を右に入ると、その先に門と蔵のある公園があり、ここ染井村の歴史の碑が浮世絵と共に展示されています。

江戸時代、付近には大名屋敷があり、その庭園の手入れをする植木職人が多く住むと共に、植木の一大生産地として栄えていたそうです。色々な園芸植物が栽培され、その中で染井吉野桜が生まれたとのこと。当時は桜で有名な

奈良の吉野に、発祥地の染井村の名を冠して「染井吉野」と命名されたとのこと。公園に隣接する小学校の校門の桜も見事です。学校前を左折すると、さすが発祥の地らしく桜のアーチです。歩いて行くと、又桜の綺麗な公園があり、公園に沿って歩くと十字路に出ます。そこを右折して進むと、染井霊園の入り口です。

霊園は桜の名所としても有名ですが、周囲のお寺を含めて、著名な方の眠る所としても知られています。桜を楽しみながら、同時に文学散歩が出来るので、多くの参拝者が訪れます。霊園内の案内板には著名人のお墓の場所が明示されていますので、容易に参拝することができます。文人の「葉亭四迷、彫刻家の高村光雲、息子で「智恵子抄」等有名な詩人の高村光太郎と妻「智恵子」も眠っています。霊園に入ってきた道を進んで行くと、慈眼寺があり、芥川龍之介と近くに谷崎潤一郎が眠っています。大文豪二人が、地下でどのような話をしてるのかを想像するだけでも楽しいものです。慈眼寺を出て、右に霊園に沿って歩くと、小さな十字路があり、そこを右に上がっていくと本妙寺に出ます。ここには、明暦の大火、いわゆる「振袖火事」の供養塔があります。江戸中が焼き尽くされる程の大火。火元が本郷丸山町にあったこの寺であったとされる説もあるようなので、供養塔もその縁かもしれません。他にあの名奉行の遠山の金さん、剣豪の千葉周作が眠っています。本妙寺を出て進むと広い通りに出ます。その信号を渡り、やや斜め右の道を行くと、商店街に出ます。ここが有名な巣鴨の「地藏通り商店街」です。商店街を抜けて、右に進むと巣鴨駅が見えてきます。

美しいしだれ桜を眺め、染井吉野の故郷を訪ね、故郷の桜並木を歩き、染井霊園の桜を満喫しながら、著名人のお墓を訪れる散歩も楽しいものです。ゆっくり歩いて約1時間半の散歩、今年ご友人を誘って訪れてみてはどうでしょうか。(三三三三 S・U)

江戸町火消のシンボル纏(まとい)

享保三(一五二〇)年、大岡越前守が町火消を組織した頃は「纏のぼり」といつ織(のぼり)形式のもので、馬簾(ばれん)という纏にたれ下げた細長い飾り(四十八本)はありませんでした。現在見られるような形になったのは享保十三(一五三〇)年のこと。町火消のシンボルとして用いられました。(町火消は、いろは四十八組と、本所深川十六組の六十四組)

纏の上部にある標識部は、陀志(だし)と呼ばれていて、それぞれの組の土地に縁のあるものや、大名の紋所などをデザイン化したものが多く、「い組」では、芥子(けし)の実に枳を型取ったものであることから、芥子枳(消します)の纏と呼ばれているそうです。東京メトロ四谷三丁目駅に隣接の、東京消防庁消防博物館(入場無料)を訪れてみてはいかがでしょうか。(三三三三 K・T)

行事報告・予定

<行事報告>

- 12月 6日 クリスマスを彩る寄せ植え講習会(25名参加)
- 2月 11日 太子堂子どもマラソン大会 (324名参加)

<行事予定>

- 3月 17日 中学校卒業式、4月 7日 入学式
- 3月 24日 小学校卒業式、4月 6日 入学式
- 3月 30日 歩こう会(ふれあい広場~明治神宮)
- 4月 12日,5月 10日,6月 7日,7月 5日 クリ-ンキャン-ン
- 5月 24,31日,6月 7,14日 健康教室
- 6月 4日 春の古着・古布回収事業(荒天の場合中止)
- 6月 25日~東京都議会議員選挙 期日前投票開始
- 7月 1日 ふれあいボウリング大会(オークラボウル)